



沖田貴史氏のご略歴

SBI Ripple Asia 株式会社代表取締役、一般社団法人 FinTech 協会アドバイザリーボードメンバー、SBI 大学院大学 経営管理研究科特任教授。

一橋大学商学部経営学科在学中に、米国 CyberCash 社の日本法人であるサイバーキャッシュ株式会社（現ペリトランス株式会社）の立ち上げに参加。米国 CyberCash の破綻などを乗り越え、2004年10月に大証ヘラクレスへ上場。2012年に香港に econtext ASIA 社を設立し、翌2013年に香港証券取引所に上場。中国銀聯との提携など、日本のみならず、中国・アジアでの決済サービス・EC インフラサービスの普及に尽力。2015年10月に、10年間務めたペリトランス代表取締役を退任し、2016年5月より SBI Ripple Asia 代表取締役。主な公職に金融審議会専門委員など。日経ビジネスが選ぶ2014年の100人に選出。

SBI大学院大学「ネット経済・経営」の概要

『インターネットがもたらす経済環境の変化』

ネットビジネスの世界は、わが国の産業界がこれまで培ってきた商慣習等が通用しない世界であるともいえる。

企業の成長や事業展開にはスピードが求められ、企業同士の「しがらみ」は薄れて、より顧客志向の対応が必要になる。

『インターネット時代に求められるビジネスの要諦とは何か？』

インターネット時代に求められるビジネスの要諦とは何か。本講義及びケーススタディを通して、受講生がネットビジネスの特性およびインターネット時代の経営戦略について理解することを目標に講義を行う。

インターネット ビジネスの本質とは？

Power Shift

— Alvin Toffler in 1990

情報の非対称性が、各段に小さくなり、
利用者主権が進む

FinTechの本質とは？

FinTechの本質は、インターネットの“パワーシフト”が金融分野へも波及すること

- ・ 最大の勝者は、**エンドユーザー**
- ・ **顧客志向**の事業者にとっても大きなメリット
- ・ 脅威として、拒絶するのではなく、win-winの関係を構築することで、**産業全体の競争力拡大**に

金融分野におけるパワーシフトのインパクト

- 証券分野

	Before Internet	After Internet
株価	日次	リアルタイム
企業分析	証券会社	適時開示
売買手数料	数万円	数百円

- パワーシフトにより、個人投資家も、プロ投資家と同等の環境に
- 結果、ネット証券が、個人株式委託売買代金で8割以上のシェアを獲得

【課題提示】

証券業界が浴びたFinTechの荒波が、銀行業に波及した場合のインパクトは？
FinTechの時代を、どう勝ち抜いていくのか？

Fintechの世界的トレンド

Key words

1. ユーザーエクスペリエンス (UX)
2. オープンイノベーション
3. 高度人材の流動性

北米の事例

Silicon Valley is coming

— Jamie Dimon in 2015

インターネット企業群が金融分野にも進出し、
伝統的金融機関に脅威を与えている

FinTechの代表事例



(出典： Square社ウェブサイトより引用)

stripe



(出典： Stripe社ウェブサイトより引用)

- Jack Dorsey(Twitter 共同創業者)が2009年に創業
- 立ち上げ期にSequoia, KPCB, Kohsla Ventures等が 資金提供
- VISA, JP Morganが株主として参加
- 2015年IPO、時価総額は約5000億円
- Collison兄弟が、2010年に21歳で、共同創業
- Sequoia, KPCB, Kohsla Venturesや PayPal共同創業者達が資金提供
- VISA, Apple、Facebookとの提携
- 2015年時点で未上場ながら、時価総額は約6000億円
- 新ソリューション“Atlas“

シリコンバレーのFinTechスタートアップエコシステム

世界中から資金と優れた才能を集め、
若くても実力と実績のある人物に、機会を提供する

【背景】

VISA, PayPalなどの決済プレイヤーだけでなく、
Apple, Google, Facebookなどのネットの巨人達も、
グローバル規模での決済事業を視野に



オープンイノベーションのための
大規模M&Aがユニコーンを生む

M&Aによるオープンイノベーションの例

Facebook acquired Instagram, WhatsApp and Oculus

facebook

- ・2012年5月に上場
- ・1兆円超の資金調達
- ・モバイル戦略が奏功し
収益を拡大



Instagram

- ・2012年: 10億ドル
- ・ユーザ数: 3000万人
- ・創業から1年半
- ・社員数13人
- ・収益は、ほぼゼロ
- ・モバイルに強み
- ユーザ数: 約5億人



WhatsApp

- ・2014年: 190億ドル
- ・ユーザ数: 4億5000万人
- ・創業から約5年
- ・社員数: 約50名
- ・モバイルに強み
- ユーザ数: 約10億人

オープンイノベーションによる高度人材活用

Mr. David Marcus

- 2008年: Zongを創業
- 2011年: PayPalが買収
- 2012年: PayPal CEOに就任

100人弱から、15,000人超

PayPal復活の原動力:

- ・ 2013年: Braintreeを買収
(前年にVenmoを買収済)

2014年、Facebook messengerに移籍



(出典: Forbes社ウェブサイトより引用)

Messenger x FinTech

The image shows the Tencent website with a celebratory banner for its 10th anniversary. Below the banner are two diagrams illustrating payment methods:

- In-App WeChat Payment:** A three-step process showing a user selecting an item in an app, clicking 'Pay Now', and the payment being processed via WeChat.
- Quick Pay:** A three-step process showing a user scanning a QR code, a merchant receiving the payment, and the transaction being confirmed.

(出典：いずれもTencent社webサイトより引用)

2008-2016 © Takashi OKITA,SBI Graduate School, All Rights Reserved. 13

中国でのFinTech事例

Alipay: 中国のEC決済手段としての事実標準(為替)
 トランザクションレンディング(貸出) + 余额宝(預金?)

The image is a collage of Alipay promotional materials:

- Left: A child in a yellow shirt and backpack, with text '支付宝 让每个人 都能支付最珍贵的 一笔财富'.
- Center: An infographic titled '什么是余额宝?' (What is Yu'e Bao?) with a '0.65%' interest rate and '收益安心拿' (Enjoy safe returns).
- Right: A smartphone displaying a credit score of 680 with the text '因为信用 所以简单' (Because of credit, it's simple).

(出典：いずれもAlipay社webサイトより引用)

事後的に銀行ライセンスを取得し、MyBankを設立
ホットピックス: 芝麻信用(クレジット&社会信用スコアリング)

リアルや国外に飛び出す中国FinTech



(出典: Alipay社webサイトより引用)



(撮影: 沖田個人)

【トピックス】世界最大のEC/Fintechの日: 11月11日



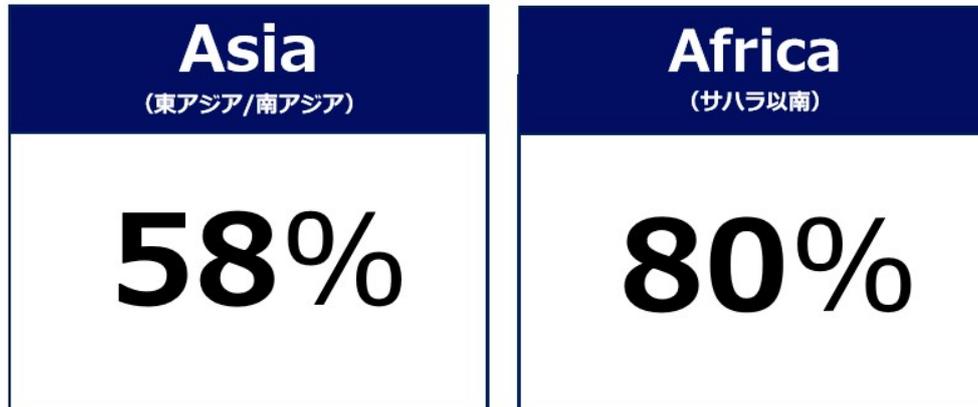
出典: CNN

2016年の流通総額は、昨年比32%増の1207億元(約2兆円)
(サイバermanデー: 34.5億米ドルの約5倍)

最初の1時間で5000億元に達した。これは、おそらく世界の金融取引において、最も短時間にトランザクション(件数ベース)が集中した事例であろう。

アジア・アフリカでのFinTech事例

unbanked: 銀行口座を持たない割合



出典: FINANCIAL ACCESS INITIATIVE FRAMING NOTE | OCTOBER 2009
www.financialaccess.org

それでも、携帯電話は持っている!!

unbanked, but wired

M-pesa: SMSを利用したunbanked層を対象として、送金・決済サービス

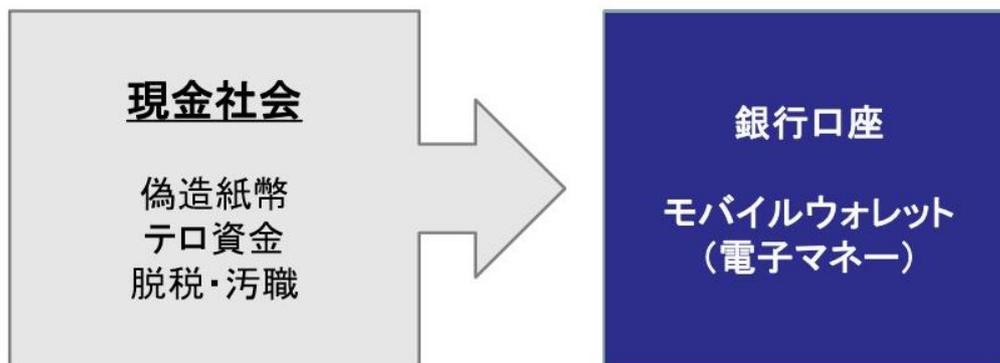


(出典: いずれもWikipediaより引用)

アジアにおいても、バングラデシュやカンボジアなどの内陸国で需要

【トピックス】 インドにおける高額紙幣廃止について

11月8日の夜、インドのモディ首相が、テレビ演説を実施し、突然インドの高額紙幣である1000ルピー札(当日のレートで、約1600円)と、500ルピー札(あわせて発行ベースの約9割)を無効にすると発表し、4時間後に実際に利用を停止した。



2008-2016 © Takashi OKITA,SBI Graduate School, All Rights Reserved.

19

日本は、海外とは違う！？

- unbanked層は少なく、金融サービスがいきわたっている
- 北米のようなベンチャー育成エコシステムの不在
- 岩盤規制の存在(?)

2008-2016 © Takashi OKITA,SBI Graduate School, All Rights Reserved.

20

World is Flat

Globalization is not a choice,
but a fact.

ガラパゴス化・鎖国という選択が許容されない

歴史に学ぶ

I believe in the horse.
The automobile is only
a passing phenomenon.

— **Wilhelm II in 1905**

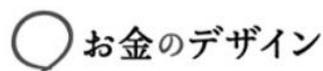
日本の金融イノベーションの課題

1. リスクマネーの不在
2. 高度人材の流動性が低い
3. 語学力不足による海外との情報格差
4. 経営幹部の世代ダイバーシティの乏しさ
5. 自前主義の強さ などなど

ユーザを含めた無謬性への要求の高さ

変わりつつある資金調達環境

FinTechベンチャーの大型資金調達例



進むオープンイノベーション

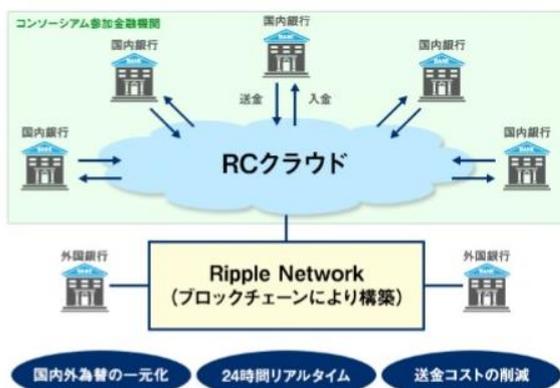
銀行主導のオープンイノベーションプログラム



FinTechベンチャーと金融機関との啐啄同機

「啐」 雛が殻の内側からつつくこと
 「啄」 母鳥が殻を外からつつくこと

「内外為替一元化検討コンソーシアム」



発足時点で、42行が参加
 (2016年10月)

ブロックチェーン等の最先端技術を活用し、「真に効率的な決済」を銀行とその顧客のために実現する

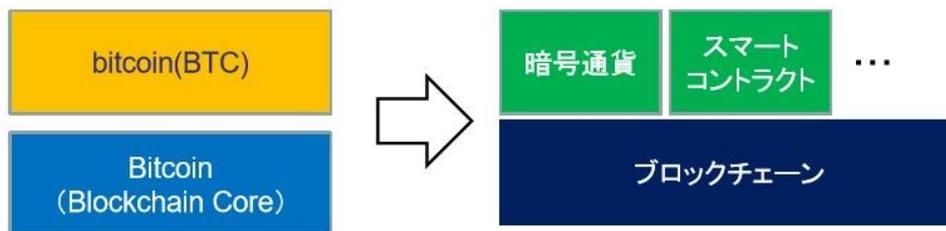
ブロックチェーンは、「検証」から「実用」へ

ブロックチェーンの沿革

■ブロックチェーンの起源

 **bitcoin** by Satoshi Nakamoto @2008

■基盤技術そのものへの着目と、応用の流れ



ブロックチェーンの特性

■(一般に言われる)ブロックチェーンの優位点

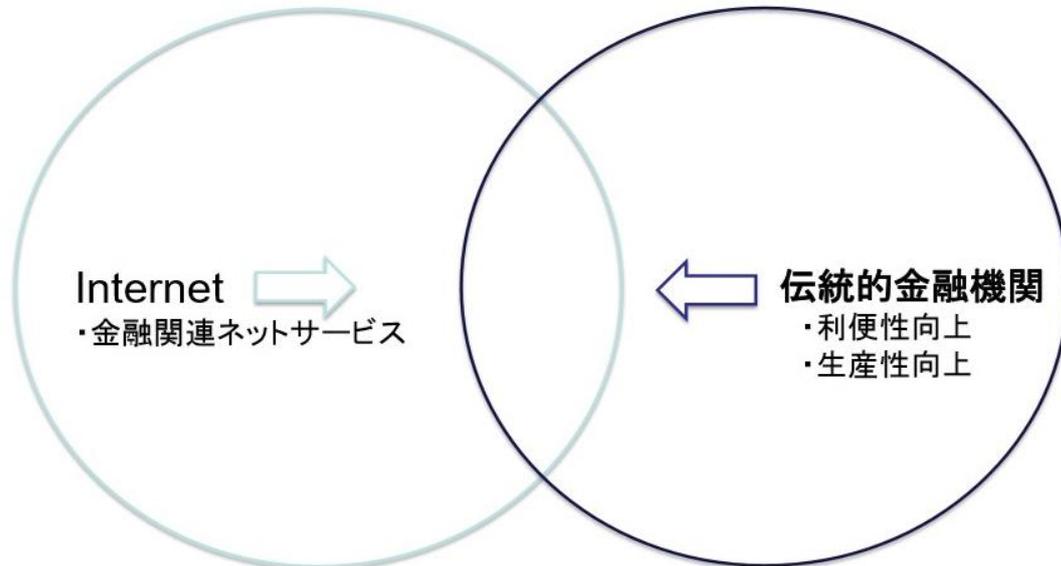
- ゼロダウンタイム
分散型システムによる冗長性が高さからくる
可用性の高さ。
- 改竄がされにくい
対改竄性・不可逆性が高い構造を持つ
- 記録情報の共有・管理
「価値」や「権利」の共有がしやすい
- コスト面の優位性(?)
オープンソース技術の積極活用

■(一般に言われる)ブロックチェーンの課題

- 処理能力
処理に時間が掛かり、スループットも低い
- プライバシー・セキュリティ
全ての取引が開示されてしまう

それぞれに課題とともに、
解消に向けた動きがある

Fintechの2つの方向性



破壊的イノベーションと漸進的イノベーション！？

“eat your own dog food”

自分の商品を自ら使え

常にユーザーの視点を忘れずに。

評論家ではなく、自分の目で確かめる。
自分の業界には、常に関心を持ち続けることが大事

“Agile”

もっとも強いものが生き残るのではなく
もっとも賢いものが生き延びるのでもない。
唯一生き残るのは、変化できるものである

“Serendipity”

セレンディピティ

- なにかを発見する能力
偶然、閃き、幸運をつかみ取る

ご参考



講演中の「ブロックチェーンの仕組み」等は略す。

SBI Ripple Asia会社概要

米RippleとSBIホールディングスとの合弁会社

